

小児科医のための

「男子性腺機能低下症の診断と治療」

岡本内科こどもクリニック

畿央大学客員教授

岡本 新悟

私は 40 年以上内分泌領域でも特に成長障害と男子性腺機能低下症を専門として多くの患者さんの治療を担当してきた。なかでも治療開始が遅れたために強いコンプレックスを抱き生涯の伴侶が得られず、また体力的にも劣ることから同性とも対等に付き合う事ができない患者さんを多く診てきた。将来に希望を持ってない彼らの辛い気持ちを医師として告白に近い訴えとして聞くとき、何とか早期に診断し同世代の男子と同じ様に恋もしパートナーを得、挙児を得て幸せな人生を送ってほしいと願ってきた。男子性腺機能低下症はすでに小児期にその兆候が見られる例が多く早期診断には小児科医の協力が必須なのである。そこで発見が遅れる原因がどこにあるのか、また早期診断にはどのような方法が可能か私なりに模索してきた。さらに治療についてはできるだけ同年齢の男子と肩を並べて二次性徴を迎えられるようにも工夫してきた。特に性腺機能低下症の治療はその一環として告知とともにコンプレックスから解き放つための心理的なケアも必要であり、単にホルモン治療だけでは片手落ちなのである。以上の経験を踏まえ特にカルマン症候群とクラインフェルター症候群を例に私が今まで行ってきた治療を紹介したい。特に今回の奈良小児内分泌研究会は 30 回を向かえる記念すべき会であり、本会の創設に携わった私として是非小児科の先生方に「男子性腺機能低下症」について理解を深めて頂きたいと私の経験と今後の取り組みについても紹介したい。